

H30地域協働研究（ステージⅠ）

H30- I -09 「人と地域を育む環境市民活動の新たな展開を探る～まちづくりの観点から持続可能の実現を図る～」

課題提案者：奥州市環境市民会議奥州めぐみネット

研究代表者：総合政策学部 倉原宗孝

研究チーム員：若生和江（奥州市環境市民会議奥州めぐみネット代表）、花澤淳（運営委員）

<要旨>

「環境」は現在とこれからを生きる私たちにとって非常に重要なテーマである。同時に地域や社会に貢献すべく行政・企業など既存主体ではない市民・住民の自主的な活動が近年いっそう注目されている。一方で、環境というテーマの今日的なとらえ方を再検討する必要性、また市民活動の持続的運営などの課題が全国的に伺えよう。本研究の母体となる奥州めぐみネットは、環境をテーマにして市民が自発的に取り組んでいる団体だが、発足から約10年を迎える中で、その持続的運営に向けて、こうした全国同様の課題を模索している。その中で奥州めぐみネットの今後の持続的活動に向けた方針や方法を再検討・再構築すること、他の同様な団体への示唆を提供することが本研究の目的である。

1 研究の概要（背景・目的等）

平成29年3月「未来を見つめる100年循環都市」地球と共存する奥州の目指すべき循環像として、第2次奥州市環境基本計画が策定された。これに先駆け奥州市では平成19年の環境基本条例策定し、第1次奥州市環境基本計画策定から市民と協働で計画策定に取り組み、およそ10年間、環境基本計画の実行、進行管理等も担える団体の育成が目指されてきた。本研究に取り組む「奥州市環境市民会議奥州めぐみネット」（以下、めぐみネット）は、この第1次環境基本計画の計画策定に関わった市民や市民団体、企業から構成される環境市民会議として、計画策定と同時に発足した市民団体である。その役割は「市と連携して環境基本計画の点検・評価と環境保全等を推進することで市の環境保全型まちづくりに寄与する団体」として第2次計画にも位置づけられており、奥州市環境フォーラムの開催や自然観察会の実施、各種環境講座の開催等を通じて、市民への啓蒙活動を続けてきた。

こうした経緯の中で役割と成果を生んできためぐみネットだが、一方で、発足当初から10年が経つ中で、会員の高齢化や新規会員獲得の停滞、市からの予算削減等により、会員の講座参加率が年々減少している現状もある。また「環境」というテーマの今日的な捉え方、市民団体としての持続的運営の形などについて再検討する機会にあるとも考えられる。その上で本研究では、めぐみネットの今後の活動方針や方法について再検討し、持続的な市民活動団体としての今後を見据えようとするものである。それは、環境をテーマにした全国の同様な団体にも参考になるものとする。

2 研究の内容（方法・経過等）

他の課題においても同様だと思うが、市民活動がすぐさま変化向上するわけではない（また安易な急激な変化が好ましいとも思われない）。その上で本研究期間においては、会員内外の議論等を通じて、新たな方針・活動として次年度以降に取り組んでいくための内容について検討していった。

会員間でこれまでの活動を振り返り検討していくこと、若者をはじめとする会員外からの視点で活動の再点検・再構築を検討すること、ほか各データ・情報の有効活用などである。

まず実験的な試みとして、これまでの経験や反省のもとに今年度の年間スケジュールを組み、広く周知されるようにデザインも創意したチラシを作成した（図1平成30年度のスケジュールチラシ）。季節毎に特徴あるイベントを企画し取り組んでいった。まためぐみネットの存在や活動内容が十分に知られていないのではないかという現状から、入会案内など情報発信に努めた。



図1 平成30年度イベントスケジュール

また会員外の視点が現状・活動の飛躍に有効ではないかとの検討から、地域外の若者（大学生）による活動への評価、提案を試みた。9月～11月にかけて、学生による現地の各資源の踏査、会員と学生の情報交換・検討を受けて、めぐみネットの活動分析と今後の方針提案がなされた。これをもとに会員・学生間、また会員内で次年度以降の方針が検討された。

3 若者による活動分析と議論

県大学生（特に環境問題に関心のあると思われる環境講座学生）とめぐみネットとの議論、現地踏査、情報分析、課題や今後の方針検討・議論を行った。



従来少なかった若者世代また地域外からの質問・指摘はめぐみネットにとって刺激と参考になったようだ（写真左）。現地踏査では、リノベーションによる店舗、地元工芸の南部鉄器など自然環境に限定しない様々な地域資源に目がいった（同下）。

現地でのめぐみネットとの情報交換・議論、現地踏査を受けて、学生グループによる一次検討がされる。そのもと再度ネットとの質疑・回答などを経て、関連情報・事例なども参考に学生からめぐみネットへの活動指摘・提案がされた。



学生4グループによりそれぞれ異なるテーマ・内容の提案がされた。めぐみネットからも多くの会員が参加し、自由で積極的な議論が交わされた。グッズや広報方法など具体的創作物もありすぐに活用したい等の感想も出た。

こうした調査提案活動と同時に、先の年間スケジュールを組んだ季節毎の各イベント、また第二回奥州市環境大会（8/22）、江刺産業祭りへの出店（10/27,28）等にも取り組んだ。こうした活動結果を共有した上で、今後を検討し、総会に於いて平成31年度の活動が決まった。

4 学生による検証・指摘と提案

先の学生との調査・議論により指摘・提案された内容は興味深いものであり、主なものを幾つか紹介しておきたい。

これまでの活動経緯・現状を踏まえた学生からの指摘としては、めぐみネットへの認知度が十分ではないとの現状を踏まえ、従来はあまり利用されていなかったSNS等による情報発信の必要性・有効性が指摘されている（これについて報告者としては、必要性・効果は認めつつ、テーマや現状

をより吟味した利活用が大事だと考えている）。また高齢化してきている会員層に対して、若年層を巻き込む魅力あるテーマや取り組みを意識すること、興味や分かりやすさを高めるためにも年間で企画される各イベント全体のストーリー性を持たせること、等の指摘、提案があった。

また具体的提案として、外来種クッキングやそのレシピ提供、年間スケジュールと共に、各イベントへの興味と理解を深めるカード作成（写真下上）、ツイッター簡易操作マニュアルの作成提供、ゴミ拾いのルート提示とその際のゴミを素材にした案山子づくり（同下）等のユニークなものがあった。



イラスト入りの作成された月ごとのカード、身近な環境を楽しくめぐるための仕掛けとしてのユニークな案山子提案など、機会あるごとに試してみたい提案があり、ネット会員と提案者（学生）との議論も弾んだ。

これらの提案の幾つかはめぐみネットの活動に反映された（ストーリー性ある年間活動の検討、活動をより知ってもらうための情報発信の濃密化やそのためにSNS等の現代的ツールを使う、等）。また見学や提案の中で取り扱われたリノベーション事業や伝統工芸など、従来の環境と逸脱したユニークな視点からの取り組みにも着手しだした。その効果は今後の取り組みをみる必要があるが（こうした活動はすぐに成果が出るものではないと考えるし、また成果以上に試みてみるのが大事だと考える）、今回の研究活動に触発された具体の取り組みが柔軟に生まれているようで期待される。

5 おわりに

環境というテーマの今日性を反映した活動、また市民が主体となった活動という二面から、めぐみネットの今後の在り方や方法について検討してきた。今回感じた一つに、会員の皆さんと学生との接点から、双方に様々な刺激があったことも注目される。一定年月を経た活動ゆえに、ともすると団体活動の閉じた状況も生まれる中で、地域・世代にわたり異なる分野・人材からの刺激は有効であり、そのことが環境から広がりのあるテーマ・方法も生み出していくようだ。同時に、学生と実務者との意識・立場の違いによる意見対立の部分もあった。こうした「違い」を有効に活かす為にも時間・期間をかけて顔を合わせた議論を重ねることの大事さを改めて感じたし、他団体にも参考になるのではないか。その上でも今後も直接間接に関わりながらの持続展開を見ていきたい。